

二周目のゴルトロン

ぽけ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ロバーデイク・ゴルトロン、ワーカークグループ「フォーサイト」の神官だった人がなんだかんだもう一度頑張ってみるお話。

目次

00. ロバーデイク・ゴルトロン

00. ロバーデイク・ゴルトロン

光を感じた。

ああ、これが神の光。闇を払う光か。

はつきりとしないう意識、あやふやでおぼろげな感覚。

それでもそれは疑いようもなく神だった。

魂を直接包み込むような温かさに至福を覚える。

声が聞こえた。……神？の声？だろうか。

「おー、ゴルトロン死んでしまうとはなさけない」

ゴルトロン、確かに聞き覚えがあった。

馴染みのある言葉。徐々に記憶が蘇ってくる。

ロバーデイク・ゴルトロン、たしかに私はそういう存在だった。

であれば、返事をした方が良いでしょうか。

ためらって躊躇っていると声が続いた。

「返事って、真面目かつ。いや、まー良い。ともあれ、あれは回避不能だったろう。」

……そうだ、私たちは抗いようのない圧倒的な「死」に弄ばれ、終わったのだ。

「でだ、お前はやり直してみる気があるか？もしもその気があるのなら、だが。」

やり直す。やり直してもっとうまくやれるだろうか。

「やり直すといっても、ただ同じ事を繰り返すことになるなら、それはあまり意味がないだろうな。結局のところ、お前がどうしたいのかではあるが、少しばかりの援助は考えているぞ。」

私はどうしたいのか。……自分の気持ち次第。できるなら、このまま終わらせたくない。

「そうか。やる気はあるようだな。あれだけの事があつて尚そう考えられるお前に祝福を授けよう。この世界の理ことわりについてわずかばかりの知識、そして、ちよっぴり特別なタレント生まれながらの異能だ。二度目の人生を存分に楽しんで来るがよい。」



そして二周目の人生が始まった。

神から授けられた知識、この世界の理ことわりによれば、人はまだまだ強くなれるらしい。この世界にはレベルというものがあり、アダマンタイト級や英雄と呼ばれる存在でも、そのレベルはまだ100のうちの30程度だとか。

人は自分たちの思い込みで勝手に限界を定めてしまっていたのだ。経験を積み鍛え続ければ強くなれるのに、自分で限界を決めて諦めてしまっていたなんて……。そんな事、想像すらできなかった。

幸い、「あの時」まではまだ時間がある。「あの遺跡」周辺の情報は気を配るようになろう。

そしてなにより、まずは強くなろう。ドラゴンよりも魔神よりも……思い込みを超えて。為す術無く力尽きることの無いように。せめて運命に抗うことができる力を。すべてはそれからだ。

「この世界の理」に従い、より強きモノと戦い、より多くの経験を経て強くなろう。弱き人々を守り、救い、癒し、様々に経験を積み重ねよう。

まずは寝返りとはいはいだな。